

言語学、はじめの一步 (19)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。このコーナーでは言語学を出来るだけ分かりやすくお伝えして、興味を持って貰えればと思い更に知識を深めるための参考文献を挙げています。今回は第19回目ですが、1回目からの分は図書館のHPからでも読むことが出来ますので、是非読んでみて下さい。

Q：前回、前々回と意味変化についてのお話でした。意味が大胆に変化するの、新鮮な驚きでした。それは前回の参考文献の該当箇所を読むと、更に身近に感じました。

A：今回は比喩による意味変化を取り上げたいと思います。比喩には表現方法によっていくつかのタイプがありますが、意味変化に関わるものとしてメタファー (metaphor；隠喩) があります。

Q：メタファーはどのような表現方法ですか？

A：比喩とは「ある物を別のある物に喩える」ことですが、メタファーはこの二つの物の関係が類似性に基づく場合のことを言います。例えば、英語のbranchは「枝」という意味ですが、branch lineは「(鉄道や道路の) 支線」という意味です。

Q：本線から「枝分かれした線」ということで

A：そうです。本線から分かれた線を、幹から分かれた枝に見立てているわけです。これは形状の類似性です。もっと身近な例を挙げると「目玉焼き」もメタファーです。

Q：なるほど、卵の黄身の部分が目玉に似ているという所から来ている訳ですね。あまりにも日常的に使っている単語なので、全く気が付きませんでした。しかし、欧米の人が目玉焼きを日本ではこの様に表現すると聞いたら、さぞ驚くでしょうね。「目玉焼き」は英語ではsunny side upと言いますから。

A：英語のsunny side upは黄身を太陽に見立てているわけですが、この場合は形状だけでなく色も関係しています。因みに「太陽の色は何色ですか？」と聞かれたら、どう答えますか。

Q：「真っ赤な太陽」と言ったりしますから「赤」のイメージですが。

A：日本人は太陽の色を「赤」で捉えがちですが、英米人に“What is the color of the sun?”と聞くと、“Yellow.”と答えます。

Q：私なら空にある黄色でまん丸いものという
と「月」を連想しますね。日本人なら、誰
でもそうだと思いますが。

A：はい。ですから「月見うどん」というメタ
ファーが生まれたりするわけです。

Q：なるほど、面白いですね。では、「かた茹
で卵」(いわゆる「にぬき」)はhard-boiled
と表現されますが、これは文学でも使われ
ますね。

A：白身に包まれた黄身が固まって「揺れない」
というところから、肉体に包まれた心が「揺
れない」、つまり「感傷的でない」「非情な」
などの意味になります。やはりこれもメタ
ファーです。先ほど例に挙げた「目玉焼き」
のように身体部位はメタファーとしてよく
用いられます。

Q：身体部位を用いると言うと、「かぼんの口」
のような表現ですね。

A：はい。この場合は形状の類似性だけでなく、
「開閉することができる」「物を入れること
ができる」という機能面での類似性も関わっ
ています。

Q：比喩と聞くと、文学等で使われるものとは
かり思っていました。しかし意外にも、日
常生活でとてもよく使われているんですね。
では最後に参考図書をお願いします。

A：かなり以前に出版されたものですが、『メ
タファー思考』、瀬戸賢一著、講談社(1995
年)です。新書ですので、分かりやすくメタ
ファーについて解説しています。

今回ご紹介頂いた参考文献は講談社現代新書
ということもあり、大変親しみやすい内容となっ
ています。今まで何気なく使っていた語が、実
はメタファーであると知り、驚いてしまいます。
そのことを知ると、日常生活ではメタファー無
しに過ごすことは不可能とさえ思えてしまいま
す。本書を読んで、使い慣れた言葉の中に新た
な発見をしてみてください。

本書の請求記号は801.6 ||Set、資料IDは558972
で、本館1階の階段下、講談社現代新書の書架に
並べられています。

にゅうがく なおや

(福井工業大学准教授・英語学・英語史)

ふじい たつや (司書・係長・アジア関係図書館)